

「Ez-SR フォックスハウンド」

製作：ヤジマ・ニルス

かつてアーリーゼニアスと呼ばれ、新ブラフスキー粒子を精製した天才理学者、ニルス・ニールセン。ヤジマ・エンジニアリングの主任技術者ヤジマ・ニルスとなった今でも、その活躍はますます盛んである。今回は彼の研究で使用される実験用機体の1つを紹介する。以前本誌でも取り上げた、あのガンブラに酷似しているが……。



FRONT [正面 / 装備オミット時]

FRONT [正面]

- 1 1/100 アメイジングレッドウォリアーやビルドバニング。今の時代において「赤い」ガンダムはさほど珍しいものでは無くなってきたが、それでも赤を主体とし、白を差し色にしたフォックスハウンドのカラーリングは新鮮な組み合わせだ。
- 2
- 3

Base
[ベース機]

成績高専のチームSRSCが作り上げたオリジナルのマキシマ同様、設計ベースになったのは同チームのガンダムEz-SRである。写真のイントルーダー、そしてエリミネーター、シャドウファントムの3機が一体となったマキシマ、その2号機はヤジマ・ニルス氏によって生み出された。

Ez-SR イントルーダー



REAR [背面]



1/144 SCALE PLASTIC KIT "HIGH GRADE (+SCRATCH)" MODELED BY YAJIMA NILS
百鬼狩りの“頑駄無”



■新装備のロングバレルビームライフルを構える。オリジナルの完全再現を目標とした工程機に於いて、攻撃手段に關してもマキシマからの造詣は許されない範囲内で製作されている。そのハズだが……忘れてはならないのはこのフォックスハウンドを手がけた人間が、近年の選手権出場こそ自認しているとは言え世界レベルのビルダーであること。さらに言えば、常に我々を驚かせてくれたファイターでもあるのだ。

百鬼狩りの“頑駄無” Ez-SR-FOXHOUND

Y Z - R 2 8 - S R I F H I



8 [ロングバレルビームライフル]
9 [ミサイルランチャー]
10 [ショートバレルビームライフル]
11 [シールドセンサー]
12 [3.80ミリキャノン]

■8■9■10■12 マキシマと同様の濃沢な武装類の中でもやはり際立つ新型ライフル。データ収集用センサーの強化に加え、特筆すべきは側面に配された扇熱用のスリットである。ここを基点としてバレル全体へ熱を行き渡らせる赤熱化(ヒート)効果をも有していたのだ。あくまでもこれは副次的な現象で、本来想定していたものではないとニルス氏は釈明したが、もしも名付けるとするならばヒートクラブ(棍棒)ではなく、刀を収める「鞘」の意味を持つ「ヒートケース」にしたいですね、と以前から決めていたように流暢な語り口だった。



■1 今回の撮影にはチームSRSCの面々にも協力頂き、オリジナルのマキシマとの共演スナップが実現。完璧な再現製作が行われたフォックスハウンド、その性能もマキシマと同一ではあるが、データの取得効率の理由から一部のパーツは変更されている。
■2 変更点の一つである頭部。前述の理由から、情報取得能力に長けたシャドウファントムのものをベースに新造された。巨大なバイザー両側部に組み込まれたセンサーが見ようによってはツインアイにも見える、ユニークなデザイン。
■3 カウンターウェイトの機能も有した胸部装甲。ヤジマ商事のマークが企業プロダクトの証だ。
■4 目トップヘビーの機体。大型の携行兵器をしっかりと支える脚部と胸部。単純な耐久性の強化ではなく“しなやか”さを加味した作り。これこそ日本人らしい柔軟な考え方で、とニルス氏は絶賛していた。
■5 藍色のカラリングへと変わったことで、背面のセンサーユニットの主強がさらに増し、まるで個別の機体と合体したようにも見える。



2
3
4
5
6

DREAM

≫ガンブラバトルの..........未来のために≪

CREATION

新プラスキー粒子には、
まだ見ぬ可能性が十分に
秘められています。

ヤジマ・エンジニアリングでは
その研究が日々続けられており、
より安全でより楽しい
ガンブラバトルを
皆様にご提供できるよう、
スタッフ一同努力して参ります。

☑検証実験機 Ez-SR ファックスハウンド.....▶
illustration : NAOKI

